

記 入 日 2018 年 1 月 8 日

1. 概 要

実践団体名	葉山町立一色小学校避難所運営委員会		
連絡先	葉山町立一色小学校 046-875-9221		
プランタイトル	避難所運営委員会活動を通じた、地震に強い学校・町づくり		
プランの対象者※1	地域住民 10、児童 2・ 3・教職員 8・保護者 9	対象とする 災害種別※2	地震 1

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

避難所運営委員会が作成した、避難所に係る冊子「一色小学校を避難所に考えている地域の方々へ」等を地域に各戸配付できれば、地域の関心や理解を大幅に向上させることができる。また、昨年度の葉山町総合防災訓練の成果を風化させないよう、一色地区自主防災訓練を実施することで、より避難所運営に習熟できる。さらに、一色小避難所運営委員会の活動を通し、児童保護者や葉山町全体を巻き込んだ防災意識・防災対策の向上が図れる。

【プランの概要】

1. 避難所冊子&リーフレットの地域への各戸配付
町内会・自治会協力の下、会員外の地域家庭にまで積極的に配付活動を実施
2. 一色地区自主防災訓練の立案・実施
12月9日の自主防災訓練に向けて、昨年度反省を踏まえた計画を組み、実施
3. 児童・職員の避難訓練、地域と児童・保護者対象の171災害用伝言ダイヤル訓練の実施
地震火災訓練、高台避難訓練、予告なし訓練等や、4回にわたる171活用訓練
4. PTA防災プロジェクトの一環として、防災講演会をPTAと5年児童に実施
2月に5年生&PTAに対し、校長が防災講演会講師となり実施
5. 葉山町全体への防災対策等の波及効果
町内各校避難所運営委員会設置に向けての流れを作っていく

【期待される効果・ここがおすすめ！】

1. もちろん配付すべき冊子が完成していることが前提となるが、完成しているとすれば、地域への全戸配付ほど、インパクトが強い方法はないだろう。学校が作る便りでその意味合いを補完すれば、地域からの理解が大いに深まっていくだろう。
2. 避難所運営委員会の活動が地域に負担少なく浸透していくだろう。
3. 様々なチャレンジが、一色小学校にとどまらず、常に町全体への普及を意識したものであれば、それはやがて町全体に広がることになるであろう。

2. プランの年間活動記録 (2017年4月～2018年3月)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4月	2017 最終報告会の 報告	第1回避難所運営委員 会 (4.11)	
5月	プランの最終立案		一色小学校地震避難訓練 (5.23)
6月	冊子原稿調整		171活用訓練① (6.1)
7月	印刷原稿入稿	第2回避難所運営委員 会 (7.18)	
8月			避難所案内冊子&リーフレット地域 各戸配付開始・意見手紙の呼びかけ
9月	報告書作成作業	第3回避難所運営委員 会 (9.26)	171活用訓練② (9.1) 地域アンケート作成・回収
10月	中間報告会 (10.15)		校外地震避難訓練 (10.25)
11月		第4回避難所運営委員 会 (11.21)	
12月			171活用訓練③ (12.1) 一色地区自主防災訓練 (12.9)
1月	報告書準備作業		
2月	最終報告会 (2.17)	第5回避難所運営委員 会 (2.6)	予告なし避難訓練 5学年防災学習 兼PTA防災講演会 (2.22)
3月			171活用訓練④ (3.1)

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： 1 】※3

タイトル	避難所運営委員会の開催
実施月日（曜日）	①4. 11 ②7. 18 ③9. 26 ④11. 21 ⑤H30. 2. 6 すべて火曜日
実施場所	一色小学校 2F 視聴覚室
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 氏 名： 所属・役職等：
所要時間または 「コマ数×単位時間」	19 時からの約 1 時間半
プログラムの カテゴリ、形式※4	17 その他（会議）
活動目的※5	8 防災意識を高める
達成目標	地域全体の合意形成
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	一色小学校管理職の司会進行による課題の協議
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	レジュメ・資料
参加人数	毎回 20 人から 25 人程度
経費の総額・内訳概要	0 円
成果と課題	【成果】運営委員会としての課題について、町の防災安全課長以下 課員の立ち会いの下、地域全体の合意が形成できてきたこと。 運営委員会に自信と責任感が生まれつつあること。 【課題】一色町内会のうち、葉山小学校に通う児童の多い、第 4 第 5 町内会の積極的な出席が得られないこと。
成果物	特になし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 2 】※3

タイトル	一色地区自主防災訓練の開催
実施月日（曜日）	12月9日（土）
実施場所	一色小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：渡辺智子 所属・役職等：BOWWANボランティア 代表
所要時間または「コマ数×単位時間」	4時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	16 避難・防災訓練
活動目的※5	3 災害に強い地域を作る
達成目標	昨年度葉山町総合防災訓練で得た経験や知見を風化させない
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	1. 避難者カード記入訓練 2. 避難所運営委員会起ち上げ訓練 3. バケツリレー訓練 4. 非常食運搬訓練 5. 発電機・照明確認訓練 6. ペット受入訓練・テント敷設訓練 7. 炊き出し訓練 8. 避難所についての解説 9. ペット講演会 10. 反省意見交換会
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ペット受け入れ準備とペット講演会講師の手配 炊き出し用の食材・水 バケツリレー用のバケツ 等
参加人数	84名
経費の総額・内訳概要	チラシ用の用紙・インク代
成果と課題	【成果】たくさんの訓練等があったが、時間通り、めあてを達成しながら訓練が進行したこと。特に、運営委員会本部が自信をつけ、次年度も是非やりたい、それも一色地区全体として、より多くの地域の方、一色小学校家族の参加等を期待したいとの結論で終わったこと。 【課題】もっと多人数に対応できるようになっていくこと。
成果物	特になし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 3 】※3

タイトル	児童地震避難訓練
実施月日（曜日）	5月23日（火） 10月25日（水） 2月〇日（予告日無し）
実施場所	一色小学校および校外（高台の芝公園）
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 担当者 氏 名：担当教員 所属・役職等：一色小学校 安全部教員
所要時間または「コマ数×単位時間」	5月：1コマ×45分、10月：2コマ×45分、2月：休み時間45分
プログラムのカテゴリ、形式※4	16 避難・防災訓練
活動目的※5	9 災害対応能力の育成
達成目標	緊急時対応能力の向上を目指し、訓練内容を効果的に学ばせる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・5月：地震火災避難訓練 地震とともに火災が発生した想定 ・10月：校外避難訓練 大津波を伴う地震発生想定で、ペア学年（1・6年、2年・5年、3年・4年）を組んで、県道横断や住宅地を抜けての高台避難をする。 ・2月：担当教員と管理職が設定した秘密の昼休みに、予告なし避難訓練を実施する
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ハンドマイク等
参加人数	525人（児童490人・教員30人・介助員5人）×3回
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p>【成果】 事前学習にしっかり取り組むことで、児童は真剣に訓練に参加する。また様々な想定においても、上級生のリーダーシップのもと、しっかり行動する力をつけていく。</p> <p>【課題】 校外避難や予告なし避難を安全に効果的に実施することは簡単とは思わない。普段の訓練よりリスクが増えることは確かである。しかし、想定に工夫や負荷を設けることも必要で、そのところの判断が重要になる。</p>
成果物	特になし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 4 】※3

タイトル	一斉下校訓練、引き渡し訓練
実施月日（曜日）	5月24日（水）、6月21日（水）
実施場所	一色小学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：担当教員 所属・役職等：一色小学校 安全部教員
所要時間または「コマ数×単位時間」	各 0.5 コマ×45分
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事
活動目的※5	9 災害対応能力の育成
達成目標	下級生は要領を覚える、保護者・上級生は責任への自覚を持つ
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	一斉下校：同じ方面の児童が、教師の誘導のもと下校する要領をつかむ。 引き渡し訓練：新学期に提出した引き渡しカードを活用し、保護者に児童を確実に引き渡していく方法を確認する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	コースを明記した名札等 記入済み引き渡しカード等
参加人数	児童 490 人・教員、児童 490 人と訓練に参加した約 300 家庭数
経費の総額・内訳概要	0 円
成果と課題	【成果】児童は毎年の繰り返しを通して、一斉下校の方法を覚えていく。また引き渡しについては、カードを介して、着実な引き渡しが行われる。今年は偶然暴風雨当日と重なり、実践さながらの訓練となった。 【課題】引き渡し訓練は、想定とは異なる状況で実施していること。実際の場面は地震と連動した夜間等になると思われる。
成果物	特になし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 5 】※3

タイトル	5年生防災学習兼PTA防災プロジェクト講演会
実施月日（曜日）	2月22日 5・6校時
実施場所	一色小学校2F視聴覚室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 氏 名：益田孝彦 所属・役職等：一色小学校・校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×45分
プログラムのカテゴリ、形式※4	2 講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	6 防災に関する知識を深める
達成目標	児童保護者に被災時の心理を学ぶことを通して、防災意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	映像資料や、「一色小学校を避難所に考えている地域の方々へ～災害に備えて～」を活用して、災害時起こりがちな心理的バイアス等を学習する。講演は、近くの人と質問の答えを考える場面を作りながら、深い学びになるよう、ワークショップ込みで実施する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	DVD映像資料、学習を深める質問、避難所運営委員会が作成した避難所冊子
参加人数	5年生85名、教員・介助員7名、保護者40名ほど（予定）
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】参加したPTAや5年生には、「率先避難者」になっていくための課題に気づくことができ、防災意識も高まる。5年生に毎年実施していくことが職員会議で確認された。 【課題】講師役となる教員がしっかり内容を把握して、自分のものにしていくことが肝要である。
成果物	特になし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 6 】※3

タイトル	避難所案内冊子およびリーフレットの一色地区全戸配付
実施月日（曜日）	8月（夏季休業中）
実施場所	一色地区
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：担当町内会役員・自治会役員 所属・役職等：一色地区住民
所要時間または「コマ数×単位時間」	十数時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	17 その他（地域への案内冊子の全戸配付）
活動目的※5	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	町内会員・自治会員への全戸配付、会員外家庭へも積極的配付
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・支援金額の決定を受け、予算に合う冊子原稿の再構築 ・冊子原稿の入稿 ・冊子およびリーフレットの完成 ・鑑文の作成（感想の依頼） ・アンケートの実施、分析
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<p>すでに完成し学校HPに載せてあった冊子原文 16 ページにまとめた冊子原稿 鑑文、アンケート</p> <p>担当町内会員・担当自治会員</p>
参加人数	約 4000 人
経費の総額・内訳概要	¥105,170-（冊子 86,650 円、リーフレット 18,520 円）
成果と課題	<p>【成果】地域にどれほどのインパクトを残すことができたか、本当のところは分からないが、寄せられた手紙やアンケートの結果から推測すると、読んで頂いた方へ与えた影響は大きいと思われる。</p> <p>【課題】文章がやや多いので、未読の方も多いと予測される。今後は、冊子の配付の効果を活かすべく、適切な避難所運営委員会の活動を継続していくことが大切になる。</p>
成果物	避難所案内冊子「一色小学校を避難所に考えている地域の方々へ～災害に備えて～」同掲示用チラシ（リーフレット） アンケート集計結果

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 7 】※3

タイトル	災害用伝言ダイヤル 171 活用訓練
実施月日（曜日）	6月1日（木）、9月1日（金）、12月1日（金）、3月1日（木）
実施場所	一色小学校および一色地区
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：管理職 所属・役職等：一色小学校 校長・教頭
所要時間または「コマ数×単位時間」	午前 11 時から午後 11 時までの 12 時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事
活動目的※5	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	地域や保護者・児童が、171 活用の意義を理解し、習熟する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便り、学校便り地域版、学校HP等を活用して、実施日時を知らせる。 ・訓練ごとに、学校からの被災情報を受け取ったり、仮想益田家の伝言ダイヤル活用例を聞き取ったりする。 ・実際に家族間でもやってみる。 ・参加の有無を学校に報告する。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・学校電話番号に登録するメッセージ
参加人数	・学校保護者の参加率は 40～50%、地域の参加者数は不明
経費の総額・内訳概要	0 円
成果と課題	<p>【成果】訓練も 3 年目に入り、一色地区の 171 伝言ダイヤルや、災害伝言板の認識率、実際に備えた活用準備率は、かなり高いことが予想される。</p> <p>【課題】システムの問題ではあるが、伝言ダイヤルの扱いが携帯等にも拡充され、関東地方で実際に起こった場合、何本のメッセージを確保できるのか、不安な部分がある。</p>
成果物	特になし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 8 】※3

タイトル	葉山町PTA連絡協議会での児童生徒非常食確保案の検討
実施月日（曜日）	平成 29 年度（通年）
実施場所	各協議会場
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：葉山町PTA連絡協議会 所属・役職等：各校PTA 役員
所要時間または 「コマ数×単位時間」	
プログラムの カテゴリ、形式※4	17 その他（PTA連絡協議会における検討）
活動目的※5	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	受益者負担の原則で毎年入れ替えるおかゆ備蓄を1コインで実現
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・構想を固め、各校PTAの合意を得る ・地元企業との提供価格・運搬納入の仕組みの合意形成 ・毎年入れ替えて、期限のまだあるおかゆを購入家庭に渡す ・改めて1コイン500円を徴収する ・町には、要保護・準要保護家庭への支援を取り付ける
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業との確認用の仕様書
参加人数	・町内全PTA
経費の総額・内訳概要	(運用開始後、各家庭から500円を毎年徴収)
成果と課題	<p>【成果】PTA連絡協議会での概ねの合意形成はできている。各校で受け入れる場合の場所・仕組みも概ねできてきている。企業との合意はPTA連絡協議会として準備は完了している。</p> <p>【課題】ある意味、PTA会費の値上げと受け取られかねなかったこと。防災頭巾や学用品の準備と同じと捉えてもらうこと。概ね賛成いただけるが、要保護家庭や準要保護家庭からの徴収は困難な中、町での財政措置がとれるかどうかは鍵となっている。</p>
成果物	合意に至った企業との見積書

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 9 】※3

タイトル	町保管防災備蓄食料の町内各校配備
実施月日（曜日）	8月～9月
実施場所	町内各小・中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：穂積課長 所属・役職等：防災安全課 課長
所要時間または 「コマ数×単位時間」	
プログラムの カテゴリ、形式※4	17 その他（教育委員会および各校との合意形成）
活動目的※5	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	町役場地下保管の備蓄食料を、場所を確保して、各校配備とする
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・可能性に関する予備調査 ・町防災安全課の役場での起案（含む教育委員会との合意形成） ・各校長への協力依頼 ・地下から各校へ備蓄食料の搬出、各校配備
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・起案 ・各校への説明書 ・防災安全課による搬出入
参加人数	特になし
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	<p>【成果】避難所指定を受けている各校に食料備蓄は全くなかったが、一色小学校での避難所運営委員会での協議が引き金となり、防災安全課も検討を加え、町役場地下保管されていた備蓄食料が、今後継続的に各校配備されることが決まった。</p> <p>【課題】今後とも町の計画通りに、備蓄食料の入れ替えを行っていくこと。また、備蓄食料の内容・構成も適宜検討され、備蓄品の内容が、各学校と共有されていくこと。</p>
成果物	特になし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 10 】※3

タイトル	町内各校の防災備蓄倉庫に避難所運営グッズセット配備
実施月日（曜日）	29年度
実施場所	町内各小・中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：穂積課長 所属・役職等：防災安全課 課長
所要時間または 「コマ数×単位時間」	
プログラムの カテゴリ、形式※4	17 その他（各校との合意形成）
活動目的※5	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	避難者情報カードや、役員用ビブス、ラジオ等をセット配備
実践方法・進め方 （箇条書き またはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会で避難者情報カードについて検討 ・運営委員会グッズの各校配備の必要性を運営委員会で指摘 ・町防災安全課の役場での起案（含む教育委員会との合意形成） ・各校長への協力依頼 ・各校備蓄倉庫への運営委員会グッズのセット配備
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・起案 ・防災安全課による搬出入 ・避難者情報カード、運営役員が地域住民に分かるビブス、ラジオ、ランタン、筆記用具等の入ったケース
参加人数	特になし
経費の総額・内訳概要	町費
成果と課題	<p>【成果】避難所での受入は避難者情報カードが鍵を握る。学校ごとに色違いのカードと、運営役員が使用するビブス等を全校配備できた成果は大きい。良い波及効果を生み出したと思う。</p> <p>【課題】今後とも町の計画通りに、備蓄食料の入れ替えを行っていくこと。また、備蓄食料の内容・構成も適宜検討され、備蓄品の内容が、各学校と共有されていくこと。</p>
成果物	各校に配備された避難所運営委員会グッズセット

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 11 】※3

タイトル	校長会での避難所運営委員会の開き方の共通理解を進める
実施月日（曜日）	平成 29 年度主として 1 学期
実施場所	町内各小・中学校
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：益田孝彦 所属・役職等：一色小学校 校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	校長会を利用した資料提供
プログラムのカテゴリ、形式※4	2 講習会・学習会・ワークショップ
活動目的※5	3 災害に強い地域をつくる
達成目標	町内各校に避難所運営委員会を立ち上げていく
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・提供文書；管理職として進めることができる防災への準備 ・提供文書；葉山町避難所運営委員会開催マニュアル ・提供学習資料；率先避難者になろう！葉山町編 ・提供資料；葉山町共通資料化した各校避難所案内冊子 ・パワーポイント資料；〇〇小避難所運営に当たって等 2 編 このような資料等を提供し、各校長を支援した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・上記文書や、パワーポイント資料
参加人数	6 人
経費の総額・内訳概要	不明
成果と課題	<p>【成果】今年度上山口小学校で避難所運営委員会が発足し、町の総合防災訓練をやりきった。また、長柄小学校でも発足する体制が整いつつある。今回チャレンジプランでの成果物は、どの学校でも活用、配付できることも成果である。</p> <p>【課題】避難所運営委員会の障害の一つは、校長の意識が大きい。その役割は学校が負うものかどうかという疑問を盾に踏み込まない状況がある。負担感の少ない運営方法を見つけることが鍵となっていく。</p>
成果物	特になし

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。



4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案と調整で苦勞した点 工夫した点</p>	<p>苦勞・工夫は立案時のことを述べるのが一番だと思う。きっかけを述べると、避難所運営委員会の活動2年目に、避難所案内冊子・リーフレットが完成した。しかし、印刷資金を十分有していなかったため、完成物を印刷して配るというアクションは起こせなかった。学校HPにPDF版をUPすることで、その代替措置としてきた。しかし、地域住民を広く巻き込んでの周知という点では、インターネットを扱うことが得意でない高齢者等のことを考慮すると不十分である。「防災教育チャレンジプラン2017」へ参加できれば、印刷代を得て各戸配付の夢が叶う。それが参加の原動機であった。一方、葉山町における避難所運営委員会活動で、普段、最も留意していることは町全体への普及であった。今回のプラン立案の際には、一色小学校だけの成果にならないような取り組みを行うことが伝えられればと願った。普通なら一介の校長の戯言に聞こえるかもしれないが、このプランへの参加を通し、葉山町全体を巻き込んでいける確信のようなものがあつた。ネックは、一色小を除けば、葉山町に避難所運営委員会組織が立ち上がっていなかったこと。しかし、それは逆に強みになる。成功例を各校踏襲すればよいからだ。今回のプランは波及効果を狙って組み立てたものが多い。他の団体とは異質な取り組みなのは十分承知した上で、プランが立案されていった。</p>
<p>準備活動で苦勞した点 工夫した点</p>	<p>準備活動の中心は、一色小学校避難所運営委員会自体での話し合いである。3年目を迎えた運営委員会は無理せず安定した活動ができていると判断する。あえて苦勞した点を上げれば、年間5回予定していた運営委員会を、第2回5月会議を私の脳梗塞入院のため中止したこともかもしれない。</p> <p>工夫した点は、防災安全課長以下、毎回きちんと参加してくださる防災安全課の皆さんに、参考となる運営委員会の協議でありたいと考えていることだ。第1回の会議では、避難者情報カードとその扱いが検討議題であった。真剣な検討を参考に、町内各校共通(色違い)の避難者情報カードが刷られ、各校に配備された。また、昨年度の運営委員会での食料備蓄課題、および本年度のPTA連絡協議会の備蓄食料課題の報告を通し、防災安全課は町役場地下保管された備蓄食料の各校配備を起案し、夏休み等を活用して各校配備を実現した。</p> <p>また率先して工夫を施したわけではないが、3年目を迎えた運営委員会のメンバー同士に、良いムード・チームワークが生まれてきていると実感する。互選で昨年度の訓練で実行委員長に選ばれた町内会長さんが、今や本物の実行委員長として責任を果たしている姿も素晴らしいと思う。</p>
<p>実践に当たって苦勞した点 工夫した点</p>	<p>今回の支援決定額は10万円であった。経済性の高いインターネット印刷を利用すると、10万円という支援金でも価値のある冊子・リーフレットが作成できることは分かった。価格を抑えるため16ページに抑える必要があり、内容も精査して冊子ができあがった。実は、従来の地域防災計画上では、津波警報が出ている限り海拔13.6mの本校は、避難所にならないことになっていた。ところが7月にハザードマップの改訂があり、地域防災計画もこの後改訂され、一色小学校は津波が到達する可能性が低いことから、津波警報が発令されていても避難所指定を受けることになることが防災課長から知らされた。その最新の情報をもとに作りかえた避難所案内冊子・リーフレットが防災安全課の確認のもと作成できたことは大きかった。</p> <p>できあがった冊子・リーフレットは、町内会・自治会の力を借りて、地域に全戸配付された。会員外の方にも配ってくださったが苦勞があつたと感じる。配付に対し地域からアンケートや数通のお便りが寄せられた。書かれていることは、苦勞が報われる内容であり嬉しかった。</p> <p>なお、一色小学校の安全部の指導で実施された様々な訓練は、それぞれ効果があり、やりがいのある訓練であった。児童の真剣な参加姿勢は一色小学校ならではのことで自負している。また2月予定の防災学習兼講演会は、チャレンジプランの集大成として深い学びになるよう、講演の方法を工夫に満ちたものにしていきたい。</p>

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	葉山町小学校・中学校校長会	避難所運営に当たっての 情報提供・意見交換
保護者・ PTAの組織	一色小学校PTA	地域アンケート調査への 支援 防災プロジェクト講演 会の開催
地域組織	葉山町PTA連絡協議会 一色地区連合町内会・自治会	一色小学校PTAが提出した 食料備蓄案の町内全体での 審議・検討 避難所運営委員会の構成 母体、活動の支援
国・地方公共団体・ 公共施設	葉山町防災安全課	一色小学校避難所運営 委員会の構成母体の一つ。 運営委員会の活動を共同的に 支援・保証している。
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	はやま防災ネットワーク BOWWANボランティア	一色小学校避難所運営 委員会の構成員として活躍。 ペットの同行避難について、 講師として、受け入れ活動 を支援
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>7月に完成した冊子を全戸配付できたおかげで、見えないところで、地域の防災意識は確実に向上しているのではと思うところがある。学校に寄せられたお手紙等には「大変役立つ冊子をありがとうございました」「安全に暮らしている今だからこそ、読み込んで考えておきたい、知っておきたいことが満載の冊子」「被災時の他者との関わり方に言及した冊子は画期的」といったご意見があり、程度の差こそあれ、99.4%の方が、「地震に対する心構えに役にたった」と回答頂いた。アンケートの集約結果も含めて、運営委員会一同その成果を感じている。</p> <p>さらに大きな成果は、町の防災安全課とタッグをしっかりと組んでの活動を展開した結果、様々なチャレンジが実を結びつつあることである。避難所運営委員会が各校に作られる流れができたり、運営委員会グッズや町の備蓄食料を町内各校で保管したりと、波及効果は間違いなく感じている。</p> <p>12月に実施した自主防災訓練も、地域全体が協力して、次年度はより参加人数が増えるような工夫をして実施していこうという結論を得て、終了することができたのも、大きな成果と感じている。次年度につながる地域の力をはっきりと感ずることができるとも成果である。</p>
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>葉山町PTA連絡協議会において、一色小学校から生まれた児童を守る防災食料備蓄案として、500円（1コイン）で済む、おかゆの備蓄についてPTA連絡協議会が一斉に取り組むかどうか、今年度も継続して協議が続いている。鍵は、要保護・準要保護家庭への支援が町の予算等で成立するかどうかだ。結果を見守っていきたい。</p> <p>活動3年目を終わろうとしている。葉山町の総合防災訓練の経験を風化させない試みとして行われた、一色小学校避難所運営委員会主催の自主防災訓練は、それぞれの訓練内容で昨年度以上の成果を上げ、経験が無駄でないことをはっきり示すことができた。課題は参加人数であろう。同じ内容であっても参加人数が増えるだけで、大きな負荷がかかることは間違いない。そんな経験を積んでいく必要があると感じている。</p> <p>一色小学校の児童・保護者への防災意識の浸透は、引き続き工夫を加えながらも、毎年行って、経験を積み重ねていくことが大切だと考えている。</p> <p>学校としても、避難所運営委員会としても、今回のチャレンジプランに参加した負荷は小さいもので済んでいる。ただ、町への波及効果を意識した校長としてはかなりの忙しさではあった。</p>
<p>今後の 継続予定</p>	<p>チャレンジプランとしての葉山町立一色小学校避難所運営委員会の参加は、今年度をもって終了する。</p> <p>一方、葉山町立一色小学校避難所運営委員会の活動は続いていく。自主防災訓練については、次年度も是非やりたい、それも一色地区全体の自主総合避難訓練として実施したい。より多くの地域の方、一色小学校家族の参加等を期待したいとの結論で終わったことは、地域の大きな原動力になることは間違いない。</p> <p>また、他校で始まろうとしている避難所運営委員会活動の手本になりつつある一色小学校避難所運営委員会の活動は目が離せないものになるだろう。昨年度の総合防災訓練で得た知見（課題）は、段ボール資材・毛布の配給課題や、食料配付方法の検討、避難所外で暮らす地域住民への配給物資の配付方法、他の避難場所となった施設との連絡方法、地域パトロール（自警団）の組織、ボランティアの扱い等々、できれば平時に話題に挙げておきたい課題が満載である。年5回程度の開催頻度で、継続的に実施していくことを予定している。</p> <p>一色小学校の防災訓練等の取り組みも引き続き継続していきたい。</p>



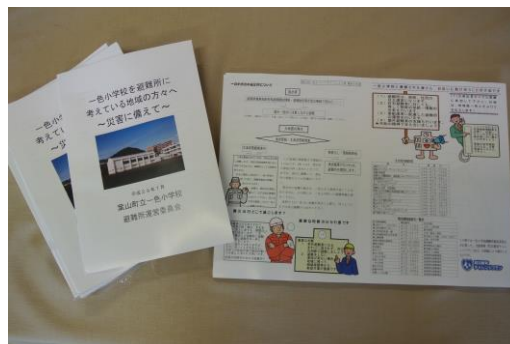
7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

従来の地域防災計画上では、津波警報が出ている限り海拔13.6mの本校は、避難所にならないことになっていた。ところが7月にハザードマップの改訂があり、地域防災計画もこの後改訂され、一色小学校は津波が到達する可能性が低いことから、津波警報が発令されていても避難所指定を受けることになることが分かった。今までの2年間、津波被害がなくても津波警報が出ている限り避難所として開設できないことにはかなりの不自由を感じていた。高台避難の後、一色小は葉山小学校に避難する計画だったくらいだ。まして、東日本大震災程度の地震の場合、警報の解除はおそらく2日はかかり、その間、一色小学校に戻れないだろうという計画はきつかった。その意味で、大きな津波被害が出なかった際には、とてもいやな設定であった。

一方、今回の改訂で「津波は到達しない」と認定されたことにも、いささか引かかるものがある。私に言わせれば、結果的に津波被害がなかった場合、警報下でも、避難所開設できることが重要であり、想定で決めてほしくない。大津波警報が出れば、想定を信じず高台避難は訓練通り行う予定である。その上で学校の無事が確認できれば、避難所として開設すれば良い。

そういった背景があったため、今回作成した配布冊子は、様々な最新の情報をもとに作りかえ、防災安全課の確認のもと作成できたものである。できあがった冊子・リーフレットは、町内会・自治会の力を借りて、地域に全戸配付された。アンケートへの回答や、数通直接送られてきた手紙等で判断すると、心理的バイアス状況が描かれた新規性が、大変好評をいただいたと感じている。



一色小学校避難所運営委員会の動きは、町全体へ波及効果をもたらしている。防災拠点としての地域への浸透を進める際、本校だけの取り組みにならないように心がけることが重要である。一色小学校での取り組みは、葉山町の小・中校長会にて報告し、さらに、「管理職として進めることができる、防災への準備とは」等のファイルを作成して、他の校長先生方に避難所運営委員会を開設するに当たっての資料やプレゼンの作成に協力した。実際に、平成29年度に入り、上山口小学校で避難所運営委員会が開かれるなど、町内各校で避難所運営委員会（準備委員会）開設が大きく動き出した。また、町役場の地下に置かれていた飲料水・非常食を各学校で分散備蓄して災害に備えることになった。さらには、防災安全課に働きかけ、各校運営委員会用グッズセットや、避難者情報カードの印刷などに係る予算も確保していただき、各校に印刷して配備することにもなった。このように町全体への波及効果があることが大切なことである。

(自由記述: 1/3)

町内すべての学校に避難所運営委員会が発足するには、各校校長の理解と同意が不可欠である。今回、関連資料の提供等を通して、踏み込んでくださった校長もいるが、今なお慎重な校長もいる。一番深いところで、「この仕事は学校の仕事なのか」疑問に思っていることが大きな理由であろう。ただでさえ多忙感がつきまとう学校運営の守備範囲に、避難所運営の要素を簡単に加えるわけにはいかないのが本音である。だから「防災安全課の仕事だ」という考えに行き着いてしまう。私は、三浦市教育委員会で働いていたときに、三浦市の危機管理課とタッグを組んで、市内に避難所運営委員会を立ち上げていった経験がある。その時に一番感じたことは、役所の危機管理課単独で避難所運営委員会を立ち上げるのは大変難しいことである。学校側の協力は不可欠と考える。つまり学校は必然的に巻き込まれるのである。その前提を覚悟しないと避難所運営委員会開設はなしえないのだ。となると、学校（管理職）の負担を軽減してあげることが、セカンドベストとなる。地域役員の運営委員会への招集は、防災安全課をお願いしている。開催回数も不用意に増やさない。話し合う内容は一色小学校がレジュメを提供し、参考にさせていただくなどの工夫が必要となる。その上で、学校管理職の一定の覚悟を引き出すことが肝要だと感じている。

自主防災訓練は、好天に恵まれ、役員を含め 84名の参加を得て無事終了した。前回の総合防災訓練では、校長がしゃしゃり出て仕切った感が否めなかったが、2回目ともなると、委員長以下、避難所運営委員会の役員さん方もずいぶん慣れて、想定通りの訓練が展開されたと思っている。たくさんの訓練があったが、時間通りめあてを達成しながら訓練が進行して良かった。最後の意見交換の場面で、「次年度も是非やりたい、それも一色地区全体の自主総合避難訓練として実施しよう。より多くの地域の方、一色小学校家族の参加等を期待したい。」との結論で終わることができた。参加人数が増えるとうなるのか、次年度の訓練の柱はそこになりそうだ。



一色小学校児童は、毎年良い訓練を積み上げていく。昨年度のものであるが、校外避難訓練の様子をPTA広報委員会取材したPDF記事があるので紹介する。児童は例年ペア学年を組んで活動するので、低学年で訓練に習熟し、高学年になると上級生として低学年児童をリードする役割を持つ。小学校生活6年間で6回の経験を積んでも、その役割が変わっていくところにポイントが隠されている。今年から5年生に実施していく防災学習と併せて、防災意識を児童に上手に醸成していきたい。また、171活用訓練は、習熟するとさらなる活用方法が見えてくる。避難所となった際、時間や数に応じた配給物資の地域配付に活用できるのではとも考えた。NTTに相談したが、難しいし、認められないとのことだったが、ただただ残念である。

(自由記述: 2/3)

避難訓練

2016. 10. 28



出発

到着



9時
全校児童
校庭集合



おさない 合言葉 しゃべらない

おかしも

かけない もどらない

10時
避難訓練
無事に終了



防災すきんを被り、小走りで校庭に集合。
おしゃべり、笑顔封印!!
終始真剣そのもの。
足早に避難場所をめざします。
(取材の私たちは息を切らし…
ついて行くのもやっと)

5年生の2年生への優しさ…
5年生は常に道路側を歩き、
2年生の手を離さず見守ります。
帰り道、5年生が2年生の防災すきんを
持ってあげている姿もありました。
どんな時でも2年生をひとりにはしないよう
5年生は行動していました。



急坂をもくもくと歩きます



9時半
避難場所の
芝公園到着

避難の時のお約束
「おかしも」について
お話を聞きました



9時40分
芝公園出発



(自由記述: 3/3)